

Très parisien... : la mode, le chic, l'élégance (トゥレ・パリジャン)

Paris : Nilsson , 1920—1935

Hiler p. 852

流行、粋、優雅さを明確に打ち出した本誌「トゥレ・パリジャン」は、1920年から1936年までの一流デザイナーの最新作を掲載し、発刊された。本誌は、一貫して薄いマニラ紙（マニラ麻で製造された淡黄色の紙）に印刷してポショワール（刷込み法）を用い、グアッシュ（不透明の水彩絵具）で着色したのち台紙に貼付する方式を踏襲している。当時のポショワールの彩色技法は、グアッシュを何層も厚く広く重ね塗りし、細い輪郭線に縁取られた平板で均一な彩色が特徴とされるアール・デコ様式の形成に貢献した。

マニラ紙上のモデルの挿絵には背景が描かれておらず、ほとんど各1点のデザイン画の図版である。その淡黄色のマニラ紙の効果は、コラージュなどにもみられる一種独特の美しさで、時には単調になりがちなポショワールを補うのに十分であった。ただ黄ばみが濃くなったり、紙質が極めてもろいのが欠点である。本誌は“すばらしいパリっ子”というほどの意味の月刊誌で、毎月18枚程度の図版からなっており、下方に文字解説が施されている。

「トゥレ・パリジャン」と同様な方式をとっているのはその仲間たち、「トゥレ・パリジャンの帽子 (Les chapeaux du “Très parisien” 1921—1936)」「新しい帽子 (Les chapeaux nouveaux 発行期間不明)」「トゥレ・パリジャンのイブニングドレス (Les robes du soir du “Très parisien” 発行期間不明)」「新しいテーラード・スーツ (Les tailleurs nouveaux 発行期間不明)」「新しいファッションのアイディア (Les idées nouvelles de la mode 1922—1932)」「パリジャンの最新作 (Les créations parisiennes 1921—1938)」などである。

「トゥレ・パリジャン」は、1922年以来刊行されていた「新しいファッションのアイディア」を1932年に吸収合併している。(佐藤俊子)



1921年 かわいい妹